



かみさと 議会だより

- ◇9月定例会の審議状況 …P 2
- ◇平成30年度決算審査報告 …P 5
- ◇9月定例会一般質問に8人 …P 6
- ◇議会閉会中の委員会活動報告 …P14
- ◇12月定例会会期日程等 …P16

静寂に耳を澄まして

85

忍保北堤外地 からす川
(昨シーズン撮影)



■平成30年度決算を認定！

第4回 9月 定例会

9月4日～27日

9月定例会は、9月4日に開会され、議員8名の一般質問と平成30年度決算認定を中心とする町長提出議案30件他を審議して27日に閉会しました。定例会で審議された内容をお知らせします。

◆ 条例改正 ◆

上里町保育所設置及び管理条例の一部を改正する条例

要旨 令和2年4月1日の新

公立保育園開園に伴い、既存の2園（長幡保育園、中央保育園）を廃止し、新たに設置する保育所の名称、入所定員、住所、開所時間を変更するものです。

1 名称

上里町立「空の杜^{もり}保育園」

2 入所定員

70名

3 住所

上里町大字七本木5592

番地

4 開所時間

午前7時30分から午後6時30分まで

◆ 補正予算 ◆

令和元年度上里町一般会計補正予算（第3号）

概要 歳入歳出それぞれ4億

8158万3千円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ94億7519万7千円とするものです。

◆ 主な事業 ◆

参議院埼玉県選出議員補欠選

挙事業

1079万5千円

埼玉県で参議院議員補欠選挙が実施されるため、非常勤職員報酬や時間外勤務手当、消耗品費などを計上するものです。なお、財源については全額県支出金で賄われます。

◆ 児童福祉事務事業 ◆

935万円

令和元年10月から開始予定の幼児教育・保育の無償化に伴い、システムの改修を行うため、電算委託料を計上するものです。なお、財源については全額国庫補助の対象となります。

◆ 公立保育所整備事業 ◆

405万5千円

主に、新園舎（上里町立空の杜^{もり}保育園）建物内のレイアウトが確定したことに伴い、キャビネットやカーテン、冷蔵庫・洗濯機などの電化製品、電話機などを購入するための費用を計上するものです。

◆ 人 事 ◆

選挙管理委員会委員の選挙
選挙管理委員会補充員の選挙

要旨 令和元年10月31日をもって任期満了となる選挙管理委員会委員及び補充員の選挙を議会が行ったものです。選挙は、指名推選により議長が指名した各4人（左表）が当選人と決定しました。

選挙管理委員会委員	選挙管理委員会補充員
岩田 常治	大谷 明雄
鈴木 光雄	百花 博美
川井 一郎	大谷 幸生
入 秀人	小林 常雄

9月定例会 議案に対する各議員の賛否

[illegible]

※議長は議事進行を行うため、可否同数の場合のみ表決に参加します。

平成30年度決算に対する各常任委員会の質疑事項（抜粋）

決算審査を9月11日から9月19日までの5日間にわたり、担当する課長及び担当職員の出席を求めて、歳入歳出決算書及び附属資料、並びに決算説明書をもとに、各課の決算内容の説明を求めました。

総務経済常任委員会

運転免許証自主返納者への支援について

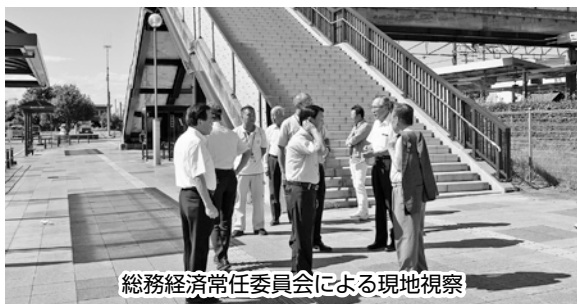
問 運転免許証自主返納者へのバス無料乗車券は1年間のみ有効であるが、1年間限定ではなく継続的措置にしないのか。

答 タウンミーティングにおいて町長が回答したとおり、75歳以上の方を無料とするなどの取り組みを検討している。

防災備蓄用食料について

問 どのくらい備蓄があるのか。賞味期限切れの場合は廃棄しているのか。

答 備蓄は10,400食分ある。地域防災計画では、被害想定で18,000食分の備蓄が必要とされており、計画的に購入を進めている。5～6年程度が期限であり、期限が迫っているものについては、防災フェスティバル、体育祭、ふれあいまつり、防災講習会などの機会に、啓発を兼ねて配布している。



総務経済常任委員会による現地視察

町税の納付について

問 休日開庁日の納付件数が前年度と比較し減少しているが、町民への周知方法は。

答 納税相談のみの方は数値を計上していないので、一概に減少したとは言えない。周知方法は、広報かみさと、ホームページ、町民カレンダー等で全町民へお知らせし、滞納者には催告書に記載してお知らせしている。

公共施設再配置・維持保全計画について

問 計画を策定中である中、既に地域福祉ミニ交流センターの解体や公立保育園の建設が進んでいる。具体的に次に着手する施設等は決まっているのか。

答 決まっていない。現在は計画策定に必要な施設利用状況や住民意見の吸い上げなど、アンケートやワークショップを実施して情報収集を行っている段階であり、次に具体的に着手すべき施設の検討も含め、当計画の策定において明らかにしていく予定である。

文教厚生常任委員会

保育料滞納額の減少について

問 何か特別な策を講じたのか。

答 保護者の納付に対する意識が高まっていることが一つの要因である。また、職員による夜間徴収等を積極に行っていること、児童手当の充当による納付を促したことにより成果が上がっていると考えている。

図書館の指定管理について

問 町職員としてのノウハウがなくなってしまうのを危惧している。町としてのチェック機能はどのように考えているのか。

答 図書館とは月に1回会議を開催している。その際にこちらからの意見は提案している。また、年度末にも会議を開催し、併せて指定管理の委員会にてチェックを行っている。司書の資格を持つ職員が9名おり、対応がよくなっている面もある。

予防接種について

問 接種率が全体的に上昇している。受診勧奨を丁寧に実施している結果だと思うが、その業務に割く時間が多くなっているのではないかと。

答 対象者や勧奨のタイミング等を工夫し、効率よく接種勧奨が行えるよう実施している。



文教厚生常任委員会 決算審査風景

老人福祉センター「かみさと荘」について

問 利用者数が年々減っている。最低限の修繕をしている状態であるが、今後の方向性は。

答 指定管理者もふれあいカフェの開催や、夏のクールシェア期間を設ける等、努力をしているが、新規の方の利用につながっていないのが現状である。今年度中に個別施設計画が策定される予定なので、今後の在り方については、そこで議論が進んでいくと思われる。現在、カーテンやカーペットを変える等、イメージアップのためのリフォームを検討している。

平成30年度 決算審査報告 ～すべて認定すべきものと決定～

9月26日、各常任委員会における決算審査について、各常任委員長から報告がありましたので、その一部を紹介します。

なお、平成30年度の決算額等については、「広報かみさと10月号」に詳しく紹介してありますので、省略します。



総務経済常任委員会

委員長 猪岡 壽

選挙事業では、町長並びに町議会議員選挙を執行し、投票率は55.5％であった。投票率アップの施策を検討していただきたい。

地方創生推進事業では、若い世帯の上里町への定住を促すための定住促進奨励金の交付を新規に実施し、4件40万円の実績があったことを確認した。さらに成果を上げるためにも、奨励金の増額などの検討をお願いしたい。

町税の徴収については、積極的な滞納整理を進めており、滞納繰越分の徴収率が4.7％上昇して33.22％となり、収入未済額も圧縮が進んでいる。現年・滞納繰越を合わせた町税全体の徴収率も、前年度を0.86％上回る96.7％となり、平成28年度に大幅に向上した後も、順調に上昇している。

下水道事業については、新規加入者47件、接続率43.7％で、接続率は前年度比1.4％の増加であった。最大の問題は接続率をいかに上げるかである。そのための相談会を休日に2回実施し、個別訪問は117件行った。今後も接続率向上のため粘り強く一層の努力をお願いしたい。

空き家対策については、空き家相談件数は40件とのことだった。今後、相談や苦情が増えていくと思われるので、所有者に適正管理の徹底をお願いするとともに、「埴北空き家バンク」の周知を行い、空き家の有効活用の推進をお願いしたい。

新規就農者総合支援事業費補助金について、当該補助金は5名該当し、就農者は11名だった。農政を推進していく上で、担い手の確保は重要な課題であるので、引き続き当該事業の推進をお願いしたい。

藤木戸勝場線歩道整備事業について、長幡小学校南側100メートルの歩道整備工事は完了したが、引き続き、上里スマートインターチェンジ乗降台数増加などにより交通量が増加傾向にあるので、県事業の促進について、積極的な要望活動をお願いしたい。



文教厚生常任委員会

委員長 高橋 仁

本年3月末現在、中央保育園56人、長幡保育園64人で合計120人の児童を保育している。令和2年4月の新公立保育園の開園時には、定員70人となるが、在園児が引き続き新公立保育園で保育を受けられるよう配慮をお願いしたい。

マイナンバーカードの普及率は、平成30年度末現在で約10％程度と、当初のもくろみ通りとはなっていないようであるが、令和3年には保険証の機能が追加できるようになり、利便性も向上することから、引き続き普及率向上に努めていただきたい。

人権教育推進事業は、町が主体性をもって人権教育・啓発を行うために「上里町人権教育・啓発の推進に関する基本方針」を平成29年7月に策定しているが、今後もこの基本方針にもとづいて人権問題に取り組み「お互いを認め合い人権を尊重する町づくり」を推進していただきたい。

小学校新1年生に対する通学用ヘルメットの購入費用の一部補助制度に加え、中学生の自転車用ヘルメット購入費用の一部補助が開始された。児童生徒の登下校時の交通安全対策として有効な事業と思われるが、近年の夏の猛暑もあることから、保護者の意見等も充分拝聴し、PTAと連携を取りながら、児童生徒の安全確保のため、補助の継続をお願いしたい。

母子衛生事業は、乳幼児健診や赤ちゃん訪問などを通じ、乳幼児の健康増進と疾病や障害の早期発見、児童虐待の早期発見と適切な支援による虐待の防止などに取り組んでいた。各種事業の実施内容や、参加者の状況などを確認したが、特に、乳幼児の健康診査や健康相談に関する事業については、未受診者のフォローが着実に実施されていた。また、子育て支援モバイルサービスを導入して、子育てに関する情報を発信しているとのことだったので、今後も育児や子どもの健康に不安を抱える母親の支援の取り組みの推進をお願いしたい。



沓澤 幸子

問

公共下水処理場跡地にバイオマス事業を

答

事業化の可能性を広域圏で検討するのも1つ

質問 1 タウンミーティングについて

問 タウンミーティングで、出された意見を課別・事業別に集約、職員全員で共有・検討し、詳しい内容を、多くの町民が見られる広報や回覧でも知らせること。今後のタウンミーティングについては、町の重要課題や計画についても、住民との意見交換の場としてはどうか。

答 参加者からの意見・要望等は、職員に共有し町政運営に活用する。今回は、聞くことに重きを置いたが、今後は重要課題や計画の意見交換の場としても検討したい。回覧・広報を使った情報活動も必要と思う。公共施設の統廃合を含む再配置等については、今後、上里町行政改革推進委員会やパブリックコメントなども予定しているが、住民参加型の説明会なりやる必要は痛感している。

質問 2 公共下水道終末処理場予定跡地について

問 国・県も「バイオマス活用推進基本計画」を見直し拡大・発展を目指しています。公共下水道処理場跡地は、第一種農地として、循環型社会の形成及び農村の活性化を図る家畜糞尿や農業用残渣を主原料としたバイオマス発電に、効果的なメタンガスの発生を維持するため、街路樹や家庭の剪定枝や刈草などの資源も計画できないか。

答 また、同時に出る液肥を利用した野菜は、17号バイパスが開通した将来には「有機野菜」として販売も出来ます。バイオマスを活用することとは、持続可能な社会の形成に貢献すると認識している。処理場予定跡地は、第一種農地で、農業生産活動により生じる物を利用して、堆肥化、発電等を行うことになりました。バイオマス発電は、農林業と合わせた多面的な推進を

目指す国の方針もあり、事業化の可能性を研究したい。広域圏で検討していくのも一つの考え。



公共下水道終末処理場予定跡地

質問 3 住民サービスについて

問 昨年の転入者は、1525人です。転入者に対し、必要な書類をきちんと提供すること。また、広報や回覧版など、必要な情報は集合住宅の住民にも届け、愛着を持って住んでいただけるような配慮を。

答 町民福祉課窓口では、転入手続後に必要な手続の一覧

を渡し、必要な手続は口頭でも案内している。その他に広報を含む情報冊子類を渡し、残っているが遺漏もあり、今後は、マニュアルを作成し均等なサービスを徹底したい。アパート等の住民への対応は行政区により様々であり、一概に強要は難しい。

問 大分県別府市では、「おこやみコーナー」を開設しています。上里町でも、死亡者数が出生者数を上回っています。心理的にも大変な時であり、複数の書類の作成を一カ所で行えるように、町民福祉課におこやみコーナーを設置しては。

答 死亡に関連した手続は非常に複雑であり、様々な申請が必要で、複数の関連機関へ出向く必要が生じる。おこやみコーナーの設置には、システム構築や職員配置、費用など課題があるが、通常業務の傍ら、遺族に寄り添える専門的なスキルを持った職員を担当させる対応で今後進めたい。



一般質問

納谷 克俊

問

学校給食費を公会計化に

答

検討を進める必要がある

質問 1 学校給食費等の徴収方法の見直しについて

問 学校給食費は、保護者が学校長の口座に振り込みをし、それを各学校単位で本庄上里学校給食センターに送金をしています。

教職員が徴収管理を行っているため学校現場の負担になっており、文部科学省では公会計化することが望ましいと示しています。

また、教職員の働き方改革からも負担を軽減し、本来の教育に時間を割くためにも学校給食費および各学校で共通をして使用する補助教材費については公会計化をし、事務負担の軽減、時間的、精神的負担を軽減して、より教育に時間を割くことを目指すべきであると考えます。

答 教育長 公会計化は徴収管理業務、滞納が生じた場合の督促業務等を町が行うため、教員が本来行うべき授業改善や児童・生徒に向き合う時間

が増えることが期待されます。教員の働き方改革、負担軽減を進めていく上で有効な手段です。また、文部科学省や埼玉県教育委員会教育長からも推進について通知も出されており、公会計化についての検討を進める必要があると考えています。

問 公会計化により金融機関も選べ、振込手数料も町負担になり保護者の負担軽減、利便性が向上します。また、給与の振り込みの口座が学校給食費の引き落としの口座になれば、引き落としができないという事例も少なくなるようですが如何お考えでしょうか。

答 教育長 給食費が公会計となれば町の指定金融機関であればどこでも引き落とし可能となり、保護者の負担は減ります。また、その口座が保護者自身の給与等が振り込まれる口座であれば、入金に向く必要もなくなり利便性も向上すると考えます。予算、業務とも町の事業な

ので、実施に当たっては人員や財政他、町に負担がかかることから、町部局と調整をとりながら検討を進める必要があると考えています。



質問 2 公有地の有効利用について

問 本庄道路と公共下水道終末処理場予定地跡の間には、河川と民有地が残りますが、今後、地権者とお話をしている中で、一体的に開発できるように計画を練り、町の商業の発展に繋げて頂きたいと思います。

答 第一種農地という位置づけなので、農業関連施設での

活用を考えなくてはいけません。将来17号バイパスが開通することによる社会情勢の変化を視野に入れ、地域住民の環境悪化を招かないようにしっかりと管理しながら、有効活用ができるよう研究していきたいと考えています。

問 SA周辺にはイベント広場と緑地帯があります。この土地について町長は、イベント広場を活用して町の商工観光業の発信地にしたいと発言されていますが、現状では地形が非常に悪く単体での利用は難しい状況です。

有効活用していくには、産業団地B区画の残地及び隣接する民間企業所有地との一体的な開発が必要です。

この土地を生かして、町の商業、観光振興の発信拠点とすべきと考えます。

答 現在のイベント広場予定地に隣接している土地を買収や譲渡などで取得して、使いやすい形での一体整備を考えています。



一般質問



飯塚 賢治

問 ひきこもりやニートへの支援について

答 ひきこもり家族の心配事に応える

1 道路の維持管理について

問 三田久保原線は、大型ディスプレイセンター等ができ、交通量が増えている。アスファルトはひび割れ、神保原陸橋下交差点付近はタイヤ幅でへこんでいるが、歩道の取りつけについて町はどのように考えるか。

答 この周辺地域は、道路冠水の実績から、今後の整備は雨水排水対策と一体的な整備が必要で、具体的な整備計画の検討をしている。交差点付近のわだちは、今年度修繕を実施していく。

問 今年度、道路舗装修理を予定している箇所はどのくらいあるのか。

答 舗装の個別施設計画に基づいて、神保原町地内の町道1024号線・1041号線、神保原小学校の東側について舗装修繕を行った。小規模な補修の穴埋め等は事故の予防の意味で、随時行っている。

2 住宅地に出没する野生動物に対する安全対策について

問 相談者に対して「檻を貸し出します」ではなくて、どのような動物がどこまで出没しているか、繁殖しているかなど、まず現地調査すべきではないか。

答 作物が荒らされたり、住宅地に住みついた等の相談については、現地に赴き、出没した動物情報、被害状況の聞き取りを行っている。町で捕獲できるのは、外来生物法に基づく、アライグマのみで、ハクビシンやタヌキは箱穴で捕獲するには、鳥獣被害防止計画に基づいた有害鳥獣捕獲許可の認定を受ける必要がある。今後は、情報収集を行い、当該計画の策定について検討する。

3 ごみ分別アプリの導入について

問 品目ごとにごみの分別を

検索する機能、ごみの出し方、出すときの注意点、ごみの収集日をお知らせする機能など、ごみに関する様々な情報が満載です。スマホやタブレットを持っている方に幅広く利用してもらえるが。

答 児玉郡市清掃行政研究会で提案し、研究してきた。市町単独で導入するより、広域圏で一括導入するほうが割安であり、費用対効果や導入後の課題なども含めて検討を進めている。

4 ひきこもりやニートへの支援について

問 現在はどうのように相談・支援をしているのか。また、ひきこもる本人が相談の場に来ることは難しいが、家族との相談を続けることで本人への支援の糸口が見つかることもある。こうした家族の集いや居場所づくりについて、お聞かせ願いたい。

答 相談を受けた窓口が話を

丁寧聞くことから始まり、その方の抱えている課題に応じて精神保健福祉士や社会福祉協議会と相談、協力して対応している。今後は、多岐にわたる悩み事や心配事を相談できる総合窓口の早期実現に向けて、検討していく。また、今年6月、居場所づくりをするボランティアの会が立ち上がり、町としては活動の周知を行いながら、連携、協力をして、ひきこもり家族の心配事に応えていきたい。



※この他に、成人用のユニバーサルベッド等の整備についても質問しました。



齊藤 崇

問

自主防災組織を結成する機運が高まっているが

答

自衛消防隊を組織している地区を中心に拡充

1 自主防災組織について

問 町内でも既に4地区でモデル地区として立ち上がっているが、これから町として拡充していくに当たってどのようなサポートしていくのか。

答 町では防災講習会を開催しており、地元区長さんから依頼をいただき、平成30年度は集会所や公会堂を会場にして12地区、延べ13回実施した。今後も防災講習会などさまざまな機会を捉えて周知を図るとともに、自主防災組織の拡充に向け、有効な補助金制度についても調査・研究をしていく。

問 三助（自助・共助・公助）がどのように横の連携をとっていけば良いのか、また平時時どのような認識を持つていなければならないのか。

答 行政が行う公助には限界があり、自助・共助と合わせて三助が連携をとることで大規模災害時にも有効に機能す

ると考えている。今後は町の広報誌やホームページなどの媒体を通して町の取組みや防災情報などの周知を図りつつ、防災講習会などにおいて顔の見える関係を築く事など、共助との連携を強化していきたい。



防災講習会の様子

2 町のインフラに対する維持管理について

問 町道に対する点検等は定期的に実施されているのか。交通量の多い道路では損傷も著しく穴の開いた箇所もあり、またアスファルトの破片が散乱して危険です。

答 日頃は職員が道路の点検を実施しているが全ての道路をカバーしている訳ではない。地元区長さんを初めとする町民の皆様より情報提供をいただいて補修を行っている。全ての道路点検については、地域ごとの重点的な点検の実施や道路パトロールの外部委託などの活用などを調査・研究してまいりたいと考えている。

町では従来の事後的な修繕対応から計画的な修繕をすることして舗装の長寿命化を図り、修繕に係る費用の縮減と交通事故防止、車両損傷の防止など安心・安全を確保することを目指すとして、平成29年度に舗装の個別施設設計画を作成した。

問 安心・安全の観点から町民体育館等公共施設の危険箇所は特定しているのか。

答 公共施設等は経年劣化により痛みや不具合が起こってくるが、それぞれの担当課が点検を行い、危険と判断された箇所は修繕を行っている。

3 コンパクトタウンについて

また、耐震診断を実施して耐震性の有無を調査している。



穴が開いてしまっている町道

問 超高齢化社会に突入したが、今後の公共施設等の設置・配置をどのように考えているか、また一極集中がうかがえるようだが。

答 町では、限られた経営資源の中で次世代へ公共施設を引き継いでいくため、人口や財政状況に合わせ公共施設の質・量・コストを最適化していく公共施設マネジメントの取り組みを進めている。



一般質問

高橋 勝利

問

妊娠中から切れ目のない伴走支援について

答

関係各課で連携を取りながら充実を図る

1 質問 住みよい町づくりに
ついて

問 町の各小学校の児童数は、上里東小627名で29クラス、七本木小が350名で児童数が集中し、それと比較して神保原小229名、長幡小226名、賀美小181名となっており、あまりにも差がありすぎます。5校の小学校は2校集中型の編成になり、今後更に格差が広がり危機的状态になりますが、町長のお考えをお聞きます。

答 現状を踏まえ、どの地域でも子どもの声が聞こえる活気あふれる町となるよう各種施策を展開していきます。子どもの幸せがその親の家庭の幸せにつながる事を忘れずに、子どもたちが喜びと充実感を感じ過ごすことができるよう引き続き選ばれる町・住み続けたい町の実現に向け、町全体で取り組んでいきます。

問 産後うつ・妊娠中からの切れ目ない伴走支援について

お聞きします。長野県須坂市・小布施町・高山村の3市町村

が取り組んでいる母子保健システム「須坂モデル」が注目されています。産後数年までの切れ目ない伴走支援を行い、10人に1人になるとされる産後うつや、子どもの虐待防止につながっているとしています。そのような事業に取り組むことで、子育て世代に注目されるのではないかと思います。町長のお考えをお聞きます。

答 本年10月より幼児保育の無料化が実施されることでありますが、新たに生じる経済的負担の軽減にも取り組むたいと考えています。妊娠中から子育てと切れ目のない支援をする為、子育て世代包括支援センターを7月から開始し、環境整備に向けた第一歩として関係各課で連携を取りながら充実を図っていきます。

2 質問 タウンミーティング
の結果について

問 5地区の実施成果と今後の課題についてお聞きします。5地区で開催されたタウンミーティングでは、様々な意見や要望が出されたと思います。各地区的参加者数など、総合した成果と課題についてお聞きします。

答 参加者は総数で188名でした。お子様連れで参加していた方もおり、とても良い雰囲気でした。参加者へのアンケートの総合的な満足度も、大変満足が17%、満足が50%と約7割に近い方に満足して頂いた結果となりました。しかしながら、参加された方々のうち年齢別では30歳代から40歳代の世代が9%しか参加がなく、世代別でも行政への関心を高めていけるよう努力していく必要があると痛感しています。

問 町民の意見を聞く機会としては大変素晴らしい企画であった。しかし、忘れてしまった方も多く、回覧や防災放送等で周知する工夫も欲しい

かったなどの意見も寄せられました。今回は大字開催であったが、小字に絞った方が高齢者や一般町民の参加も多くなると思います。今回のタウンミーティングは、町民とのキャッチボールと私は理解しております。意見や要望はその場の出来事でなく、出来るだけ実現できるように努力してもらいたいが。

答 次回開催については、時期、規模、場所、テーマ周知など、実施方法について慎重に検討させて頂き、積極的に実施の方向で考えていきたい。内容については、役場組織内で共有させて頂いており、町政に役立たせて頂いています。



タウンミーティングの様子



一般質問

高橋 茂雄

問 クリーンの日について

答 地域の美化が向上している



質問 1 クリーンの日について

問 クリーンの日が始まってから今年で36回目になるが、クリーンの日の趣旨について町長の考えは。

答 町内全域、大勢の方にご参加いただき、可燃ごみ2350kg、不燃ごみ840kgを集めることができた。ごみの量は年々減少しているが、それは地域の美化が向上していることであり、よい傾向なのだと考えている。このクリーンの日は、小さなお子様からお年寄りまでご参加いただき、

地域の美化運動をしながらコミュニケーションを深めるとてもよい機会だと思っている。

質問 2 本庄上里学校給食センターの災害時の役割について

問 本庄上里学校給食センターは、本庄市と上里町の負担で運営されているが、災害が起きたときの炊き出しの分配はどのようになるのか。また、1日最大何食分供給することができ、それは町全体に行き渡るのか。現在、給食センターは指定管理者制度のもとで民間委託しているが、いざ災害が発生した場合、誰が炊き出しをするのか。

答 本庄市と上里町と本庄上里学校給食組合は、災害発生時に備え、「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」を締結している。なお、応急生活物資とは、原則米飯の供給としており、その他の供給可能な物資は協議の上決定する。給食センター

では、約100tの貯水槽と地下タンクに900ℓの軽油を備蓄し、非常用発電装置による自動炊飯システムの稼動が1日10時間の運転で3日間運転可能である。約1000kg前後の精米を在庫として保有しており、米飯として提供できる量は、最大1万2000食分である。なお、給食センターと委託業者との契約の中で、災害が発生した場合、組合が行う救援作業等に協力することになっている。給食センターにおいては炊飯まで行い、運搬については各市町で行う。

質問 3 石油ガス災害バルク（※）等の導入事業費補助金制度について

問 エルピーガス振興センターでは、1申請当たり上限1億円の補助金が出る。これを活用して避難場所としている施設（町民体育館等）をライフラインが途切れても、空調や停電もない拠点にしたら

どうか。活用できれば、災害時だけでなく、普段の体育館使用時でも、エアコンやシャワー等が使用でき、熱中症も防げ、異常気象の中でも快適に過ごすことができるが。

答 町の避難場所は、公共施設を指定しており、体育館のほか、公民館や児童館なども指定している。エアコンが設置されていない避難所もあり、避難生活が長期化すると、避難者が熱中症になるリスクが増加することも考えられる。災害時におけるライフラインの確保及び避難所の負担軽減を図るため、石油ガス災害バルクが有効であると考えているが、導入には設置費用のほか、設置後の維持管理費用など、費用対効果を見きわめながら、さまざまな非常用発電装置も含めて検討していく。

※ガス等の供給網が途絶した場合でも、貯蔵されている石油ガスによりエネルギー供給を可能とする、災害対応型の石油ガス供給システム。



一般質問

猪岡 壽

問

駅南大通りの延伸について

答

町の発展に寄与すると認識し事業化を検討

質問 1

防犯カメラの設置を拡大させる対策について

問 全国各地で凶悪で悲惨な事件が相次いで発生しているが、その事件の解決や犯人逮捕の糸口には、その周辺の防犯カメラの映像によるところで、これからも安心安全な町を目指すためにも、現在町の施設に11箇所設置してある防犯カメラの増設が必要である。特に人の集まる役場本庁舎の外周や駐車場、公民館・児童館には取り付けるべきと思うが、町長の見解は。

答 本年度役場庁舎内の各フロアに防犯カメラを設置予定であるが、大勢の方が行きかう庁舎玄関など外部に向けて設置することで、犯罪抑止や事件解決のきっかけに繋がると考えている。また、公民館や児童館などは、不特定多数の方や児童が出入りするので、設置には効果的な場所と思う。本庄警察署や各施設等とも協

議の上、効果的な設置を考えていきたい。

問 現在、各地域の公会堂には設置している地区はないようである。これからは地域の防犯対策として、設置を希望する地区も出てくると思うが、設置する費用の補助をコミュニティ施設改善事業補助金等で支給することも検討すべきだが。

答 公会堂など、地域で防犯カメラの設置を希望する場合には、町のコミュニティ施設改善事業補助金（2分の1補助、上限100万円）もあるので、防犯カメラ設置にも活用していただければありがたい。

質問 2

神保原駅南大通り線の延伸について

問 神保原駅南開発事業完成以来6年が経過し、通勤用の駐車場は増えたが、物品販売店舗や企業事務所などの出店はほとんどない状態である。

要因はいろいろあるが、活性化を図るには、神保原駅南大通り線を古新田四ツ谷線まで延伸させることが必要だが、町長の見解は。

答 神保原駅南大通り線を古新田四ツ谷線まで接続することで、道路網としての効果を発揮し、町の発展に大きく寄与するものと認識している。地元の区長さんからも口頭ではあるが、要望があるので、四ツ谷の交差点の改良もあわせて、今後検討していきたい。

問 神保原駅南大通り線が古新田四ツ谷線まで延伸されれば、神保原駅を利用して町内外の住民が、道路の混雑が減り便利に利用できるのではないか。

答 藤岡市の住民から、町長へのメールで、神保原駅周辺の駐車場を増やしてほしいという要望もきているので、駐車場を増やすことなども含め、南口の活性化について総合的・計画的に、事業化を進めていきたいと考えている。

問 これからの町づくりは、町が主導していかなければ、乱開発に繋がる危険性があるので、神保原駅南大通り線の事業化については、町の管理体制をしっかりと、安心して住みよい町づくりをお願いしたいが。

答 神保原駅南周辺の活性化や住宅開発については、乱開発を心配している住民もいますので、この事業化については、いろいろな意見を吸い上げながら、町主体で乱開発を防止し、事業化に繋げるようにしていきたいと思っています。



神保原駅南大通り線の延伸を



一般質問

仲井 静子

問 窓口の対応について

答 顧客満足度を調査し、改善・向上に努力する



質問 1 窓口の対応について

問 地方公務員法第30条に「すべての職員は、全体の奉仕者として公共の利益の為に勤務し、且つ、職務の遂行に当たっては、全力を挙げて、これに専念しなければならぬ」と明記されている。町民に対しては、誠実かつ丁寧な対応を心がける事が大事だという意味と解釈している。窓口対応は、以前に比べれば多少良くなっているが、残念ながら一部の職員の不適切な対応が町民のひんしゆくを買っている。町では様々な研修を行っているが、残念ながら全職員に徹底されていない。さらなる研修の強化と職員の意識改革を行って、町民に愛され、そして信頼される役場を目指すべきだが。

答 町長に就任して以来、職員訓示や課長会等を通し、職員にはそれぞれの部署で自分の力を存分に発揮し、自信を



上里町役場1階窓口

持つて公務に臨んで頂くと共に「全体の奉仕者であり、公共の利益の為全力を挙げ職務を行う」という責任を忘れずに業務に尽くし、そして私たちの行動が町民の為に becoming いかどうか、丁寧に話を聞いて業務を行うよう指導している。サービスを受ける側の気持ちを知る事が大事である。町民に喜んで頂けるよう窓口アンケートを行うなどしてご意見を頂き、顧客満足度を調査する。町民の皆様にとって、まだまだ至らないという事であれば、さらに接遇や伝達能力を鍛え、町民に愛される職

員となるよう努力していかねばならない。

質問 2 総合案内カウンター業務について

問 一般町民から見ると総合案内カウンターは必要無いのではないかという声をよく耳にする。そこで提案だが、アクティブシニア活躍推進の一环として、行政マンとしてのノウハウと高いスキルを待つ町役場OBを活用し、フロアマネジャーのような人材を配置し、町民のニーズを的確に聞き取って迅速に対応できる体制の整備を進めるべきと考えるが。

答 1階の窓口付近で迷っている方、申請書の書き方等で困っている方にとって有り難い存在かと思っている。これに関しては、私としても実現したいと考えますので、どのようなやり方が良いか若い職員等の意見なども聞きながら検討する。

質問 3 中高年のひきこもり8050問題について

問 40歳から64歳までのひきこもりの人の数は、内閣府の調査で推計61万3000人である。全国的にひきこもりの長期化・高年齢化・社会的な孤立が深刻な社会問題になっている。50歳代の子と80歳代の親の世帯が共倒れになる8050問題は深刻です。支援の必要な人が支援の網から漏れ、支援が届いていない、あるいは相談さえできず諦めている家族も存在している。家庭の問題は、介護・貧困・ひきこもり等があり、それぞれの問題に対し担当課が異なるが、一括して丸ごと全部相談を受け入れる窓口を設けてはどうか。

答 多岐にわたる悩み事や心配事を一括して丸ごと相談できる窓口の早期実現に向けて、社会福祉協議会・町内関係機関・各課と連携を図って検討する。

議会運営委員会・議会活性化特別委員会—合同視察研修—委員長 納谷 克俊

10月3日 視察先：埼玉県三芳町議会・富士見市議会

議会運営委員会と議会活性化特別委員会の合同視察研修が行われました。視察先は三芳町議会と富士見市議会であり、それぞれ受入先議会の議員より説明を受けた後、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

○三芳町議会

～議会改革の取り組みについて～

三芳町議会では平成19年の改選後に議会改革の機運が高まり、先進地視察の結果、「出来ることからやっていく」との結論を得て、夜間議会や休日議会の実施、議会報告会を開催してきました。その後、議会改革特別委員会を設置し、住民意見交換会を実施しながら議会基本条例と議員政治倫理条例の制定に取り組みされました。

現在では議会基本条例に基づき、議会報告会の開催や住民とともに政策提言を実現する政策検討サイクルを稼働させるために、住民を交えた政策サポーター会議の設置や議会モニター制度を実施するなど、更なる改革に取り組んでいます。



○富士見市議会

～タブレット端末の導入の経過と現在の利用状況について～

富士見市議会では平成26年度にタブレット端末の利活用の協議検討を始め、先進地視察や操作研修会などを経て端末のリースを開始しました。その後、タブレット活用推進委員会を設置して使用基準の検討、資料のデータ化試行を行ってきました。

現在では新たな端末とソフトウェアを、また市長を始め幹部職員にもタブレットを導入して本会議をはじめとする各種会議、視察や地域での活動、通常の連絡や災害時情報連携など、さまざまな分野でタブレットが活用され、印刷コストや人件費の削減、情報伝達の迅速化・共有化につなげています。



○今後に向けて

今回の視察研修を活かし、上里町議会でも議会基本条例の制定も含めて更なる議会活性化、またICTの積極的な導入による経費節減や情報受発信の強化に努めていきたいと思っています。

公共交通等対策特別委員会—視察研修—委員長 沓澤 幸子

10月21日 視察先：埼玉県北本市

○デマンドバス事業について

当特別委員会は、公共交通のあり方について、2つの分科会に分かれて調査・研究を行っています。今回のデマンド交通の視察には、分科会Bを中心に9名が参加しました。

デマンドバスの先進地である北本市は、市長の公約であったコミュニティバスの運行を目指していましたが、議会からは、「それ以外の、他の方法についても柔軟に対応すること」との意見が上がり、新たな公共交通機関の導入に向けた調査・研究を行いました。その結果、高齢者の行き先として要望が高いのは、買い物・娯楽・通院であり、高齢者等交通弱者と交通空白地域の解消を目的に、デマンド方式を検討し、平成21年度からテスト運行、実証運行を経て、平成23年度に本運行を開始しています。

平成30年度の経費は、予約・登録受付も含め2,689万6,701円です。運行内容は、①ワゴン車2台と普通車2台。②年中無休で、8時30分から17時30分まで。③利用料金は1回300円で、半額軽減制度もあります。利用登録者は、平成30年度末までで10,003人、

うち利用者は3,972人であり、平成30年度中の利用者は延べ27,718人で、60歳以上の利用者が58%とのことです。課題としては、①希望が多く、予約が取りづらい。②予約が1時間前までのため、帰りの予約が取りづらい。③予約者の15%が当日キャンセルする等があるようです。

北本市の面積は、19.82平方キロメートルで、民間路線バスが7路線運行し、その他に、他市のコミュニティバス等6路線も利用できます。担当者の説明では、デマンド方式は地域が小さいほど効果的とのことで、“利用者の半分が1人乗り”であっても、地域が狭いのでピストンで乗せた方が速いそうです。

上里町の面積は北本市の約1.5倍、人口は約半分であり、他の交通環境も大きく違います。住民の公共交通に対する要望、優先される行き先、目的地へのルートを最小限にする工夫など、上里町にあった、住民が利用しようと思える公共交通手段のあり方を追求する必要性を改めて感じました。



10月17日 会場：吉見町「フレサよしみ」

危機を乗り越える夢と戦略 ～ローカル線と地域の活性化～

講師：いすみ鉄道株式会社 元代表取締役社長
鳥塚 亮氏

千葉県のいすみ鉄道は、元は国有鉄道であったが、今から30年ほど前の民営化に移行される際、赤字路線だったため、廃止される寸前でした。地域を支える生活路線ということで、千葉県や沿線自治体などの強い要望で第三セクター化され、かろうじて生き残った鉄道です。経営が厳しい中、その打開策のひとつとして社長公募が行われ、平成21年に鳥塚亮氏が就任しました。



いすみ鉄道は、千葉県の大原～上総中野間26.8kmを昭和5年、つまり今から90年前に開業した路線であり、荷物の運搬など建設当初の目的はすでに終了してしまっているとのこと。今は地域の足というよりも地域の観光開発・地域活性化の先駆けとなっているようです。地域の人達も第三セクターで運営されていることを認識してお

り、駅の掃除や草むしりなどを地元の小学生や中学生を含めて積極的に行っているとのこと。ローカル線は特長を持った経営をすれば、テレビ等の取材や都会の人達が訪れてくれるのに目を付け、ムーミン列車や旧国鉄形車両の導入などを行うことで、観光者数を増やしたとのこと。まず始めに、女性が訪問してくれる地域、また集まってくれる地方づくりを考えることが大切であるようです。田舎の人は古いものが嫌い、都会の人は古いものが好きとのことでもあります。そのことを考えても、都会の人が来てくれるような地域づくり、つまり都会にない地方独特の原風景、大人になっても思い出せるような地域づくりが、都会だけでは成立しない地域のブランド化・地域活性化に役立つのではないのでしょうか。

ガイドブックに載っていない場所を見つけて都会の人達は遊びに来ます。今、地域にあるものを活かして観光地化を図ることが大事です。地方ではその原石の磨き方が分かる人が少ないと言われますが、その磨き方について突き詰めることが地方創生・地域活性化に繋がると感じました。



追跡！ 一般質問

議員の質問・提言に答える町執行部、
その答弁がその後どうなったのか・・・
どう町政に反映させているのか・・・対応を追跡します

問 三田に新たな信号機設置を！

古新田四ツ谷線は開通以来、三田中通り線との交差点で、交通事故が多発しており、通学路でもあることから、早急な信号機の設置が必要！

平成31年3月定例会（令和元年6月号掲載）
平成30年6月定例会（平成30年9月号掲載） 他



古新田四ツ谷線と三田中通り線との交差点に設置された三田(西)信号機

答 設置条件が整っていない。

開通以前から継続的に埼玉県警と協議を続けていたが、交差点の構造が暫定的な形状であるという理由から、設置に至らなかった。

どうなった？

令和元年8月26日、信号機が設置されました！

根強く要望した結果、古新田四ツ谷線が開通してすでに5年以上経過している事、現状の交差点を将来的に暫定形状から計画形状へ整備する事を条件に設置が決定。

議会日誌

9月

- 4日 定例会初日(開会、町長の行政報告、一般質問)
- 5日 一般質問、議会運営委員会
- 6日 全員協議会
- 9日 議案審議(条例改正、補正予算等)
- 10日 議案審議(決算総括説明、意見書報告、委員会付託)
- 11日 常任委員会(30年度決算審査)～24日
- 13日 議会活性化特別委員会
- 14日 上里中学校体育祭・上里北中学校体育大会
- 20日 公共交通等対策特別委員会
- 21日 各小学校運動会
- 24日 議会活性化特別委員会
- 26日 常任委員長決算審査報告・採決
- 27日 全員協議会、定例会最終日(人事案件等審議)
- 30日 児玉郡市広域市町村圏組合議会

10月

- 3日 議会運営委員会・議会活性化特別委員会合同視察研修
- 6日 公民館・児童館まつり(賀美・長幡・七本木)
- 9日 議会活性化特別委員会
- 17日 議会だより編集委員会、埼玉県町村議会議員研修会
- 20日 公民館・児童館まつり(上里東・神保原)
- 21日 公共交通等対策特別委員会視察研修

11月

- 3日 表彰式典
- 8日 全員協議会、上里町議会懇話会
- 10日 ふれあいまつり
- 11日 議会だより編集委員会
- 13日 郡議会議長会視察研修(～14日)
- 17日 消防団特別点検
- 18日 議会運営委員会、議会活性化特別委員会
- 19日 文教厚生常任委員会視察研修

編集後記

また町民体育祭等も中止となり、千
葉県長生村、埼玉県三芳町と応援
協定を結んでおります。このよう
なことから、町民の安心・安全を
守り災害に強い町づくりの推進
のためにも、皆様の御意見をお
待ちしております。

年末年始は特に多忙極める時
であり、来年も皆様が、お元氣
で活躍されますよう。

高橋 仁

議会だより 編集委員会

- 委員長 猪岡 壽
- 副委員長 高橋 勝利
- 委員 高橋 仁
- 委員 齊藤 幸子
- 委員 高橋 浩之
- 委員 齊藤 崇
- 委員 猪岡 壽



再生紙を使用しております

12月定例会の日程(予定)

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
					(開会) 一般質問	
8	9	10	11	12	13	14
	一般質問		議案審議 特別委員会	特別委員会	常任委員会	
15	16	17	18	19	20	21
	(閉会) 報告・採決					
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

※開会は原則午前9時です。午前中で議事が終了しない場合は、
昼休憩後、原則再開は午後1時30分からとなります。

※議事の進行上、休憩が入る場合があります。

12月定例会一般質問一覧

氏名	質問事項
6日(金)	沓澤 幸子 ①防災関係について ②教育・保育について
	納谷 克俊 ①監査制度の充実強化について
	植原 育雄 ①災害対策について ②障害のある方の働く場所の確保について ③上里中学校校庭の風による土ぼこり対策について ④高齢者対策について
	高橋 茂雄 ①公共施設等の開放について ②生活環境について
9日(月)	高橋 勝利 ①今後の小中学校教育の取り組みについて ②台風19号発生に伴う町の対応と今後の防災について
	猪岡 壽 ①一般会計と水道事業の元利償還額について ②税収以外の収入を増やす施策について
	仲井 静子 ①幼児の弱視・遠視の早期発見について ②地域行政区の役員の担い手確保について ③防災における男女共同参画の推進について
	黛 浩之 ①地域の防災・減災と低炭素化を同時に実現する 自立・分散型エネルギー設備等の導入について ②町制施行50周年を迎えるにあたって
	飯塚 賢治 ①災害時に備えた公共施設等の機能拡充について ②余熱利用施設「湯かっこ」の利用について ③新生児聴力検査について